

奈良 勲・内山 靖編集

図解 理学療法検査・測定ガイド

富樫誠二

(大阪河崎リハビリテーション大学リハビリテーション学部)

理学療法は「評価に始まって評価に終わる」と言われる。これは理学療法にとって評価がいかに大切であるかを表現しているフレーズである。理学療法において、よりの確な評価をするためには、まずその基礎となる検査・測定に習熟することが重要である。そして検査・測定を実施するには基本的知識だけでなく基本的臨床技能が求められる。常々、理学療法を実施する上で、検査・測定に関する臨床的視点からの知識と技能をエッセンスにしてまとめたコンパクトな書物が欲しいと思っていた。そのような折、奈良 勲教授、内山 靖教授の編集によって待望の「図解理学療法検査・測定ガイド」が刊行されたことは喜ばしい。

本書の内容をみると、理学療法検査・測定に必要な項目が実に広く網羅されていることに驚く。まず冒頭の第Ⅰ部では、検査・測定の基本的考え、検査・測定の進め方が提示されている。それを読むと編者らが本書を企画した意図や編集の流れが、なるほどと理解できる。検査・測定項目の一覧表が頁の最初に掲載してあるので必要な項目をすぐ紐解くことができるようになっている。

各検査・測定項目は、まずその検査の概観を示し、全体を理解できるように編集されている。検査に必要

な検査の流れ、ポイント、検査の手順、検査のコツがそれぞれ丁寧に書かれている。検査手順についてはイラストや写真を適切に挿入し、検査に必要な基本技能をわかりやすく示し、それにつづく思考が身につくように工夫されている。また検査場面を想定したセラピストの適切な言動を示し、実に細部にわたり配慮されている。

さらにクリニカル・ビューとして、臨床家が工夫している種々の検査・測定に関連した見解と実例などが提示されており、非常に興味深い。本書の全体を通して、実践能力を高める検査・測定ガイドブックとしての編者の一貫した姿勢・哲学が読み取れる。

本書は、必要な情報の集め方や ICF に関連した機能障害・活動制限・参加制約の観察、調査まで含めた豊富な内容となっている。「目からウロコが落ちる」という箇所もあり、検査・測定を整理するうえで非常に有用な書物である。膨大な情報量を 1 冊にまとめる編集過程には時間と労力を要したと推察する。体裁をコンパクトにしたことで、解説文や図・表などの構成に難があるともいえるが、身近に置いて、必要なときにすぐ活用できる利便性がある。

本書は、理学療法学を勉強中の学生諸子はもちろんのこと、保健・医療・福祉領域のフィールドで活躍されている理学療法士諸氏にも、座右の書物として薦めたい 1 冊である。

●A5 判 878 頁

定価 9,975 円(本体 9,500 円+税 5%)

2006 年 文光堂・刊